



初日の55歳をこぎ終えて着岸するクルーたち  
23日午後3時55分、登米市登米町の船着き場

# 熟年クルー北上川満喫

大学時代にボート部で活躍した60〜70代の42人が23日、かつての水運の大動脈で川下りファンに「東北のローレライ」と呼ばれる北上川の川下りへの挑戦を始めた。この日午前9時前、岩手県平泉町からボートに乗り込み、2日間で石巻市まで94キロを下る。23日は登米市登米町までの55キロを約7時間かけて、無事こぎ終えた。「漕艇に最高の環境。全国に誇れる川だ」と熟年クルーたちは自然を満喫した満足感に浸っていた。

(掛園勝二郎)

初日、平泉から登米着

## 「全国に誇れる」

川下りは、東大、京大、東北大、早大、慶大などのボート部に在籍し、66年に卒業した約90人でつくる「良い会」が企画した。

### 最高齢は76歳

クルーたちは23日午前8時前、平泉町平泉泉屋の船着き場にTシャツ、短パン姿で集合。「良い会」会長の大隅多一郎さん(66)が「新しい試みを全員で成功させよう」とあいさつし、6人こぎの競漕艇4艘に乗り込んだ。

緑に覆われた渓谷で急流がある一方、川幅が広く流れが緩やかなところも。途中、強い向かい風にあたって思うように進まない場面もあった。だ

がクルーたちは一部の人が交代したり休憩を取ったりしながら全員、元気に目的地である登米町の船着き場にこぎつけた。

参加者のうち最高齢で東京からやって来た鉄矢知志さん(76)は「腰にきている」と言

いつつ、「でも気持ちよかったです。4艘並んでこげるなんて。水もきれいで、景色もいい」と笑顔で話した。56年のメルボルン五輪にエイトの選手として出場した加藤順一さん(73)も「自然のなかの川の流れが気持ちいい。こんな所は関東にはない」と褒めちぎった。

旧登米町史などによると、北上川は、慶長6(1600

1)年に領内の支配に乗り出した伊達政宗が水路開拓に力を入れ、江戸後期には盛岡、仙台両藩の年貢米や海産物などを運ぶ約400艘が行き来したという。

大隅さんは「漕艇の環境として私の知る範囲では最高の川。岩手、宮城両県のボート愛好者が増えることを期待しています」と話した。

### ボートの魅力発信

車で伴走するなどして支援した石巻ボート協会の栗原智宏副会長は、「今回の企画はボートの魅力発信と競技人口の増加につながるチャンスです」。宮城県ボート協会の千葉建郎副会長は「全国に誇れる川。皆さんが宣伝してくれらるでしょう」と期待した。

水先案内をした「石巻千石船の会」会長の辺見清二さん(61)も「川下りで再び脚光を浴びるようになればうれし」と顔をほころばせた。

24日は、登米町から39キロ先にある石巻市水明南2丁目の石巻商高艇庫を目指す。ゴール近くでは潮の具合で逆流もあるというが、鉄矢さんら熟年OBたちは「十分ストレッチをして、明日もがんばる」と張り切っていた。